

関係者各位

PRESS RELEASE 2021.7.26

長野県立美術館グランドオープン記念

森と水と生きる

会期：2021年8月28日（土）－11月3日（水・祝）※会期中展示替えがあります

会場：長野県立美術館 展示室1・2・3

わたしたちの暮らしや営みの中で、森や水といった自然はかけがえのない存在です。自然は人間の生活に豊かさをもたらすだけでなく、時にひるがえり脅威となりながら、わたしたちと共にあります。長野県立美術館のグランドオープンを記念する本展では、新しい収集方針の一つである「自然と人間」をテーマに、ありとあらゆる芸術作品に表現された多面的な自然の姿を展覧します。古今東西のアーティストによって見いだされる自然の様相は、実景に基づく写実的なものから、想像力を呼びさます抽象的なもの、個人の感覚や記憶を往還するものなど多岐にわたって、わたしたちの目の前に立ち現れていくでしょう。

本展では、5つの章を通して、絵画や写真、インスタレーションなど、さまざまな方法によって表現された近現代美術の名品を紹介し、今日のわたしたちと芸術、そして自然との関わりを見つめ直します。



長野県立美術館グランドオープン記念 森と水と生きる展 ポスター

展覧会概要

『長野県立美術館グランドオープン記念 森と水と生きる』

- 会 期： 2021年8月28日（土）～11月3日（水・祝）※会期中展示替えがあります
- 会 場： 長野県立美術館 展示室1・2・3
- 主 催： 長野県、長野県立美術館
- 共 催： 長野県教育委員会
- 後 援： 長野市、長野市教育委員会、長野商工会議所、善光寺、長野県芸術文化協会、長野県美術教育研究会、
（公財）八十二文化財団、（公財）ながの観光コンベンションビューロー、JR 東日本長野支社、
信濃毎日新聞社、NHK 長野放送局、SBC 信越放送、NBS 長野放送、TSB テレビ信州、
abn 長野朝日放送、FM 長野、INC 長野ケーブルテレビ

観 覧 料： 一般 1,000 (900) 円、大学生及び 75 歳以上 800 (700) 円、高校生以下又は 18 歳未満無料
※（ ）内は 20 名以上の団体料金 ※東山魁夷館及び長野県立美術館名品選との共通料金 一般 1,500 円、大学生及び 75 歳以上 1,100 円
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と、付き添い 1 名は無料

■本展のみどころ

- ・長野県立美術館のグランドオープンを記念して、全国から選りすぐりの名品を紹介
- ・豊かな自然を有する長野県において、「森」や「水」を題材とした作品から自然と人間の関わりについて考える
- ・絵画や写真、インスタレーションなどの近現代の多様な作品を展覧

■展示構成

第1章 森と山—その姿と暮らし

自らの足で未知の山々を歩き、自身の目を通してその姿をうつしとった岳人画家や山岳写真家の作品、山や森そのものを普遍的な素材として捉える作家による作品をご紹介します。多彩な表情をみせる森や山の姿は、近代から現代にいたるまで多くの作家たちを惹きつけ、その中でたくましく生きる人間の姿もまた題材となりました。



吉田博《有明山》1920年、長野県立美術館蔵

第2章 森の幻影

古くから語り継がれる神話や聖書を育む場としての森、芸術家の原風景としての森、作家の内面世界を表出する創造の森など、森林が喚起するイメージはさまざまです。時に生命力に溢れる楽園として、あるいは畏怖や崇敬の対象として描かれる森林は、個人や社会の記憶をも包括するでしょう。



アンリ・ルソー《エデンの園のエヴァ》1906-1910年頃、ポーラ美術館蔵

第3章 水景へ—人々とその諸相

人間の生活と切り離せない水にまつわる風景は、古来より多くの美術作品に取り上げられてきました。胸中の「山水」を描く東洋美術の伝統と、西洋美術における「風景」の概念の影響をふまえ、近代以降の日本において生み出された水のある風景と人間の営みに関わる水の存在を題材にした作品を紹介します。



小川芋銭《江村六月、雲巒烟水》1935年、茨城県近代美術館蔵 前期展示

第4章 水の精霊

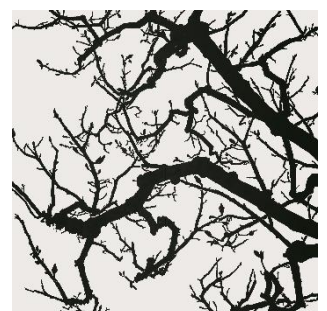
人間の生命にとって必要不可欠である水は、聖書や神話の世界を表現する際に、象徴的あるいは神聖なものとしてしばしば描かれました。また、水そのものがもつ性質を装飾的・記号的に表現することによって、あらたな想像の世界が生み出されていきます。



ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス《フローラ》1914年頃、郡山市立美術館蔵

第5章 森と水—息づくものたち

今を生きる作家がそれぞれのフィルターを介して見つめる、自然と人間との共生のありかたを探ります。自然とのつながりの証として出現する生き物、科学的な視野や内的なものから立ち現れる自然などを題材にした現代作家の作品から、隆起した海底が山として存在する長野の地で、自然と人間の関係を考えます。



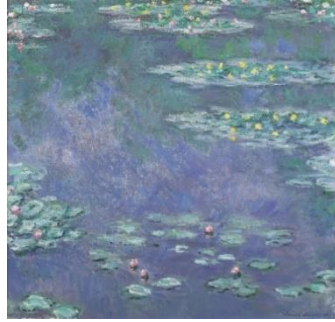
日高理恵子《空との距離 XIII》2017年、作家蔵
©Rieko Hidaka, Courtesy of Tomio Koyama Gallery

※画像提供をご希望の場合は、別紙「広報用画像申込書」に必要事項をご記入のうえ、メールまたはファックスにてお申し込みください。

広報用画像



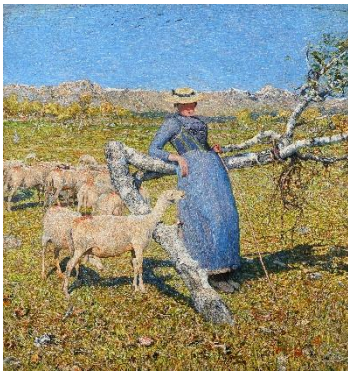
①フェルディナント・ホドラー 《木を伐る人》
1910年、大原美術館蔵



②クロード・モネ 《睡蓮》
1907年、アサヒビール大山崎山荘美術館蔵



③菱田春草 《伏姫（常磐津）》
1900年、長野県立美術館蔵 前期展示



④ジョヴァンニ・セガンティーニ
《アルプスの真昼》1892年、大原美術館蔵



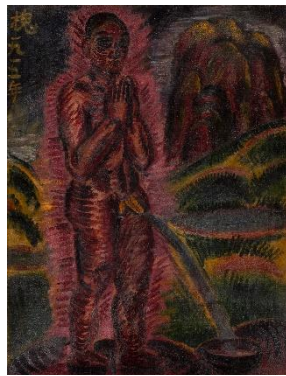
⑤吉田博 《有明山》1920年、長野県立美術館蔵



⑥田淵行男 《初冬の浅間 黒斑山の中腹より》
1940年、田淵行男記念館蔵



⑦岡本太郎 《森の掟》1950年、
川崎市岡本太郎美術館蔵



⑧村山槐多 《尿する裸僧》1915年、
長野県立美術館蔵（信濃デッサン館コレクション）



⑨アンリ・ルソー 《エデンの園のエヴァ》
1906-1910年頃、ポーラ美術館蔵



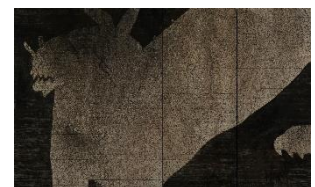
⑩小川芋銭 《江村六月、雲巒烟水》
1935年、茨城県近代美術館蔵
前期展示



⑪ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス
《フローラ》1914年頃、郡山市立美術館蔵



⑫日高理恵子 《空との距離 XIII》2017年、作家蔵
©Rieko Hidaka, Courtesy of Tomio Koyama Gallery



⑬岡村桂三郎 《龍-降臨 17-01》2017年、作家蔵
撮影/末正真礼生 提供/コバヤシ画廊

長野県立美術館 行

FAX 026-232-0050

MAIL nam-pr@naganobunka.or.jp

広報用画像申込書

長野県立美術館グランドオープン記念

森と水と生きる

会期：8月28日（土）～11月3日（水・祝）※会期中展示替えがあります。

■本展覧会の広報用写真を用意しております。ご希望の写真の左欄に○をつけて、メールまたはファックスにてお申し込みください。写真はデータにてお送りします。（下記以外の作品画像をご希望の場合はご相談ください。）

○をつけてくだ さい↓	番号	画像名
	①	フェルディナント・ホドラー《木を伐る人》1910年 大原美術館蔵
	②	クロード・モネ《睡蓮》1907年 アサヒビール大山崎山荘美術館蔵
	③	菱田春草《伏姫（常磐津）》1900年、長野県立美術館蔵
	④	ジョヴァンニ・セガンティーニ《アルプスの真昼》1892年、大原美術館蔵
	⑤	吉田博《有明山》1920年、長野県立美術館蔵
	⑥	田淵行男《初冬の浅間 黒斑山の中腹より》1940年、田淵行男記念館蔵
	⑦	岡本太郎《森の掟》1950年、川崎市岡本太郎美術館蔵
	⑧	村山槐多《尿する裸僧》1915年、長野県立美術館蔵（信濃デッサン館コレクション）
	⑨	アンリ・ルソー《エデンの園のエヴァ》1906-1910年頃、ポーラ美術館蔵
	⑩	小川芋銭《江村六月、雲巒烟水》1935年、茨城県近代美術館蔵
	⑪	ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス《フローラ》1914年頃、郡山市立美術館蔵
	⑫	日高理恵子《空との距離 XIII》2017年、作家蔵 ©Rieko Hidaka, Courtesy of Tomio Koyama Gallery
	⑬	岡村桂三郎《龍-降臨 17-01》2017年、作家蔵 撮影／末正真礼生 提供／コバヤシ画廊

●貴社についてお知らせください

貴社名 / 媒体名（雑誌、番組名等）

ご担当者名 / 所属部署

ご住所 〒

電話 / FAX

E-mail

ご掲載・放映の予定日があればお知らせください。 月 日（ ） に発行、または放映予定

※掲載紙・誌を1部ご惠贈いただければ幸いです。

関連イベント

※予約が必要なイベントは、すべて申込フォーム（当館ホームページ内）にて受け付けます。

※新型コロナウイルス感染症等、諸般の事情により、会期等に変更が生じる場合があります。最新情報は美術館ホームページをご覧ください。

(1) アーティストトーク「森と水と生きる—自然と人間の共生」

会場の様子とともに、新しい美術館のコレクションポリシーでもある「自然と人間」について、当館館長をファシリテーターに現代作家の視点をお話しいたします。

日 時：9月11日（土）14：00～ オンライン配信（予定） 参加費無料・申込不要

講 師：山口啓介・須田悦弘・大小島真木 ファシリテーター：松本透（当館館長）

(2) 担当学芸員によるスライドトーク

本展のみどころを、担当学芸員の専門や観点からご紹介いたします。

時 間：14：00—15：00（受付開始13:00）

会 場：レセプションルーム 定 員：30名 参加費無料・当日整理券配布（先着順）・手話通訳あり

① 9月20日（月・祝）「森と水の風景」 講師：田中正史

② 10月9日（土）「私たちの風景—映像に見る森と水とそこにある生活」 講師：松井正

③ 10月16日（土）「自然と息づく者たち—文化史から見る—」 講師：鈴木幸野

④ 10月23日（土）「水にまつわる物語」 講師：木内真由美

⑤ 10月30日（土）「描かれた山 信州の山々を中心に」 講師：上沢修

(3) 「全盲の美術鑑賞者」とアートなトーク！

視覚障がい者と一緒に、言葉を用いて展示作品を鑑賞するワークショップです。どなたでもご参加いただけます。

日 時：9月19日（日）10：00～12：00

講 師：白鳥建二（全盲の美術鑑賞者）・光島貴之（全盲の美術鑑賞者・作家）

会 場：展示室1・2・3 定 員 8名 参加費無料（要観覧料）・要申込（8月19日～・先着順）

(4) こどもアートラボ

ねんど・絵具・紙などを素材に遊びを通したさまざまな造形体験を提案します。こどもから大人までどなたでもご参加いただけます。

日 時：9月11日（土）／10月9日（土）10：00～15：00

会 場：交流スペース 要申込（詳細は美術館ホームページをご覧ください）

(5) アートをしゃべってみませんか？

解説を聞くのではなく、作品を見て感じたことをおしゃべりしながら、鑑賞体験を深めるワークショップです。

日 時：9月12日（日）／10月23日（土）10：00～11：00

会 場：展示室1・2・3 参加費無料・要申込（各回1か月前・先着順）・高校生以下対象

同時開催

- 長野県立美術館名品選第I期 会期：2021.8月28日（土）—10月26日（火）会場：コレクション展示室
観覧料：一般700（600）円、大学生及び75歳以上500（400）円 ※企画展との共通券／一般1500円、大学生及び75歳以上1100円
- オープンギャラリー—夏季展示—中谷芙二子 会期：8月27日（金）—9月14日（火）会場：オープンギャラリー 観覧料：無料

お問い合わせ・資料リクエスト先

長野県立美術館（旧長野県信濃美術館）広報・マーケティング室

TEL：026-232-0052 / E-MAIL：nam-pr@naganobunka.or.jp